プロスポーツチームとの連携による地域活性化促進プロジェクト

〔事業責任者〕
（自治体等側）
株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック・代表取締役社長
沼田　邦郎
株式会社茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメント・代表取締役社長
山谷　拓志
（大学側）
茨城大学理工学研究科・理学野
中村　麻子
茨城大学理工学研究科・理学野
百武　慶文

連携先

株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック
株式会社　茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメント
株式会社　いばらきスポーツタウン・マネジメント

プロジェクト参加者

中村　麻子（茨城大学理工学研究科理学野・教授　担当：事業担当責任者・企画立案・全体総括）
百武　慶文（茨城大学理工学研究科理学野・准教授　担当：事業担当責任者・企画立案・全体総括）
高橋　修　（茨城大学人文社会科学部・教授　担当：企画立案・実施）
藤縄　明彦（茨城大学理工学研究科理学野・教授　担当：企画立案・実施）
伊藤　孝　（茨城大学教育学部・教授　担当：企画立案・実施）
松村　初　（茨城大学教育学部・准教授　担当：企画立案・実施）
沼田　邦郎（株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック・代表取締役社長　担当：事業担当責任者・企画立案・調整・総括）
山谷　拓志（株式会社　茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメント・代表取締役社長　担当：事業担当責任者・企画立案・調整・総括）
市原　侑祐（株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック・経営企画室・室長補佐　担当：企画立案・調整）
加藤　健一（株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック・事業チーム・広報担当　担当：企画立案・調整）
古源　慶太（株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック・事業チーム・広報担当　担当：企画立案・調整）
佐々木知美（株式会社　茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメント・マーケティンググループ　担当：企画立案・調整・交渉）
川崎　篤志（株式会社　いばらきスポーツタウン・マネジメント・代表取締役社長　担当：事業担当責任者・企画立案・調整・総括）
沼田　秀一（株式会社　いばらきスポーツタウン・マネジメント・イベント担当　担当：企画立案・調整・交渉・イベント担当）

プロジェクトの実施概要

①プロジェクトの目的

株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック（以下、水戸ホーリーホック）が掲げる「夢と感動と一体感の共有に向けて、地域に根ざし、地域と歩み、地域に貢献し、地域と共に発展する」という理念、そして株式会社茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメント社（以下、茨城ロボッツ）が掲げる「スポーツにより地域の活性化や地方創生に貢献する」という理念と、茨城大学の大学憲章が掲げる「市民や社会から信頼される大学であるために、地域と連携した教育と研究を推進する」理念とを強く連携させることで、地域プロスポーツの更なる発展と茨城大学の地域貢献力の向上を目指すものである。

また、本連携事業への茨城大学学生の参画を通して、茨城大学のディプロマポリシーである「課題解決能力・コミュニケーション力」「社会人としての姿勢」および「地域活性化志向」の3つの力を積極的に養うとこを目的としている。

②連携の方法及び具体的な活動計画

2019年度は水戸ホーリーホック・茨城ロボッツ・茨城大学の三者が連携して「地域活性化に貢献する持続可能な協働体制」を確立することを目的として、大学イベント（70周年記念式典、オープンキャンパス、学祭など）での連携事業展開の公開や、これまで水戸ホーリーホックとの連携で行われてきた「フットボールカフェ」の拡大版として、「フットボール&バスケットボール・カフェ」の開催などを活動計画とした。また、2019年度（令和元年）より開始されるi0Pクォーターを利用した茨城大学学生の水戸ホーリーホック事業や茨城ロボッツ事業へのインターンシップ派遣なども計画した。

③期待される成果

水戸市を本拠地とするプロスポーツチームである水戸ホーリーホックや茨城ロボッツと茨城大学が連携することで、地域スポーツ活動の拠点づくりに大きく貢献すると期待する。例えば、茨城大学内の体育館など一部の施設や機能を地域住民へ開放することはあり得ても、地域住民のスポーツ活動の拠点となることは考えにくく、茨城大学単独で地域スポーツの核としての地域貢献は不可能である。しかしながら、両プロスポーツチームと茨城大学がお互いの資源を活用していくという考え方のもと事業連携を行うことは、スポーツ文化活動の拠点構築という地域活性化をもたらすことができる。

茨城大学が中心となり水戸ホーリーホックそして茨城ロボッツとの連携事業を実施することは、特定のスポーツファンをターゲットとした事業とは異なり、今、茨城県においてどのようなプロスポーツが存在し、そのプロスポーツがどのような形で地域にエネルギーを与え、地域活性化に貢献しているのかを知る機会を提供することにもつながる。これら茨城大学が“架け橋”となって行う連携事業の提供は、スポーツを介したエンターテイメントの学びや、障害者スポーツへの気づき、さらにはスポーツ科学の発展をもたらすことが期待され、地域と連携した教育と研究を推進する茨城大学の役割を強く発信することに繋がる。また、本連携事業への茨城大学学生の参画は地域の子ども達や中年・高齢者さらには障害者との直接的な交流を生むこととなり、学生自身が、これらの活動を通して成長し、茨城の活性化を担う人材となることを期待する。

最後に、茨城のプロスポーツチームとの連携事業推進は、地域住民だけでなく受験生に対しても魅力ある地域協働型国立大学としての強みを発信できると期待する。

プロジェクトの実施成果

① 活動実績

１:2019 年度オール茨城大学招待デーを 2019 年 6 月 22 日（土）に開催した。水戸ホーリーホック・ホーム試合への茨城大学の招待試合は今年で 7 回目を迎え、今回はサッカー観戦が初めてだという学生も多く参加した(図１)。

図１：2019 年 6 月 22 日の茨城大学招待デー参加者の写真

招待デー当日は、茨城大学からバスでスタジアムに向かい、試合観戦の前に水戸ホーリーホックスタッフの協力のもと教育イベントを開催した。教育イベントでは、クラブスタッフから水戸ホーリーホックの活動紹介に加え、インターンシップ受け入れについての説明があった。本事業に参加することでプロスポーツチームの活動を知ることができたとともに、インターンシップについての具体的なイメージを得ることができたと期待される。

２:2019 年 11 月 9 日-10 日にアダストリアみとアリーナにて、SYNALIO presents ROBOTS HOME GAMES　茨城ロボッツ vs 広島ドラゴンフライズ戦を茨城大学創立 70 周年記念試合として開催した（図２)。

当日は、茨城大学教職員・学生に対して特別割引チケット（1000 円）を販売し、多くの茨大教職員・学生に観戦の機会を設けた。また同時に、会場には茨城大学ブースの設置を行い、多くの来場者に茨城大学の活動周知を行った（図３)。

図２：2019 年 11 月 9 日-10 日の記念試合について学長への報告

図３：記念試合で設置した茨大ブース

試合会場に設置されたミニステージでは混声合唱団､大道芸サークル･スウェット組合、吹奏楽団のパフォーマンスを実施し、ハーフタイムショーでは、チアサークル Cherry’s によるパフォーマンスや（図４)、三村学長も参加した”借り物競争“などが実施され、茨城大学と茨城ロボッツの連携を強化していった。

なお、本事業に参加した本学学生に対して茨城大学型基礎学力「ディプロマポリシー」にどのように貢献したかをアンケート調査したところ、79%が「課題解決能力・コミュニケーション能力」の向上に役立ったと答え、さらに 93%の学生が「地域活性化志向」に役立ったと回答した。

図４：2019 年 11 月 9 日のハーフタイムショーでの Cherry's のパフォーマンス

３：2019 年 11 月 16 日-17 日に実施された茨苑祭において「地域連携事業　地元プロスポーツチームとの連携紹介展示」を実施した。水戸ホーリーホック、茨城ロボッツに関する様々なアイテムの展示や、茨城大学の地域連携事業についてポスターを掲示するなどして連携事業を紹介するイベントとして企画した。当日は茨城ロボッツ担当者から選手サイン入りユニフォームやシューズ、プロモーション動画などの提供を受け展示を行った（図５）。

図５：2019 年茨苑祭での展示

会期中は茨城大学生が展示ブースの運営サポートを行った。2 日間で多くの学内、学外参加者が来場し､連携事業の社会発信を行った。

４：2019 年 12 月 21 日（土）に「フットボール&バスケットボール・カフェ」を講堂にて開催した。本イベントはこれまで水戸ホーリーホックとの連携で行われてきた「フットボールカフェ」の拡大版として実施された。第一部では「水戸ホーリーホック・茨城ロボッツが茨城を変える」と題し、茨城大学 OB でケーズスタジアム DJ の寺田忍氏による司会進行で、水戸ホーリーホック冨田大介 CRC、茨城ロボッツ山谷社長、理学部教授の中村と藤縄の 4 名で大学とプロスポーツがどのように連携することで地域活性化を目指していけるかについてパネルディスカッションを行った（図６）。

図６：フットボール&バスケットボール・カフェ第一部でのパネルディスカッション

続いて行われた第二部では「水戸ホーリーホック『彩』にあふれた 2019 シーズンを振り返る」と題し、水戸ホーリーホックから冨田大介 CRC、GK 本間幸司選手に登壇いただき、茨城大学アナウンスステーションの学生を中心に水戸ホーリーホックの 2019 シーズンについての熱いトークを行った。

本イベントは学内・学外から 100 名を超える参加者があり、水戸ホーリーホックと茨城ロボッツそして茨城大学が連携することに対する地域住民の高い期待が確認された。

②　プロジェクトの達成状況

これまで茨城大学と水戸ホーリーホックおよび茨城ロボッツは連携協定を締結後、個々の連携事業を推進してきたが、三者が連携す

る形での事業は行われてきていなかった。2018年度、茨城大学と茨城ロボッツが正式に連携協定を締結したことに加え、学内の茨城ロボッツ連携事業推進チームとしてiBIRDが立ち上がったことで、三者を“横に繋げる”しくみが初めて整ったと考えた。そこで本年度は茨城大学を中心として、幅広くプロスポーツチームとの連携を推進するために本事業を立ち上げ、ホーリーネットとiBIRDが連携することで様々な事業を遂行した。当初の計画のすべての事業を実施するには至らなかったものの、12月に実施した「フットボール&バスケットボール・カフェ」では学生・教職員・OBOG・選手・経営陣・地域住民という多様な人材が講堂で実施されたイベントに参画するという、これまで個々の連携では成しえなかった地域活性化に直結した多面的事業が展開できたと考える。

また前述のように、本事業に参加した本学学生に対して茨城大学型基礎学力「ディプロマポリシー」にどのように貢献したかをアンケート調査したところ、多くの学生が「課題解決能力・コミュニケーション能力」および「地域活性化志向」に役立ったと回答しており、本事業が目的とした学生のDP能力向上が十分に達成されていると考える。

③　今後の計画と課題

茨城大学を中心としたプロスポーツとの連携は「持続可能」な事業として展開する必要がある。本年度開催した連携イベントは来年度も継続的に行うことは当然であるが、持続可能な事業とするためには連携内容をさらに発展させていく必要がある。具体的には、三者間の連携によって「何ができるか」を漠然と考えるのではなく、現在の茨城県が抱える課題を共有し、それらに対しての実効性のあるアクションを連携から生み出すなどの事業展開が期待される。

茨城大学は地方総合大学として、スポーツ・食・科学・文化等幅広い専門性を有することから、今後継続的に行われる本事業を通じた専門的知識の社会還元さらにはプロスポーツとの革新的なコラボレーション展開を目指すべきであると考える。